



TOEIC

-目標スコアと学習法-

阿久津 由佳 (あくつ ゆか)

経済学部講師。

上智大学外国語学部英語学科を卒業後、シティバンク、群馬県庁などに勤務。その後、ロータリー財団奨学生としてアメリカ、スタンフォード大学教育学大学院で外国語教育を専攻し、修士号を取得。専門分野は英語教育・語用論など。著書に「TOEICリスニング問題300問」・「TOEIC文法・読解問題300問」(桐原書店)などがある。

就職活動をするならTOEIC受験するのが常識の時代になった。
ある大手電気メーカーの人事教育担当が言うように
「英語ができないと仕事にならない時代」が
到来していることのあらわれだろう。
今回は大学卒業までに目指すべきTOEICスコアと、
そのための勉強法について考えてみよう。



TOEICとは

年間百万人以上が受験する今や最もポピュラーな英語試験。どの程度「世界共通語英語でコミュニケーションができるかどうか」を測るものさしとして定着してきた。形式はリスニング(45分間で100問)・リーディング(75分間で100問)計200問のマーク式。10点から990点までのスコアでレベルA(860以上)・B(730-855)・C(470-725)・D(465-220)・E(215以下)の5段階に評価される。

目標スコア

入社時に企業が「期待するスコア」は600点程度が一般的だが、英語専攻ではない学生なら最低470点以上が現実的な目標だろう(ちなみに470あれば群馬県庁などでも受験の際にプラス点となる)。600点ならある程度の英語力をアピールできる程度、英語を日常的に使う仕事を目指すなら730点を目標にしたい。

TOEICの特徴

TOEICの形式的な説明は左上の囲みを見てほしい。ここでは内容的な特徴のみを述べたい。まず、最大の特徴は量が多く、早いリスニング。例えば英検2級では70点満点中リスニングの配点は20点で、全体の30%未満に過ぎず、20問のみ、スピードも多少ゆっくり目である。しかしTOEICでは半分の100問がリスニングで占められ、時間も45分間にわたる。また内容もかなり高度でスピードも速い。もうひとつの特徴はビジネス関係の語彙や内容が頻出すること。もともとビジネス英語

どう勉強すればいいか

の力を測るテストとして開発されたため、ビジネスシーンでよく使われる英語が出題される。例えば社内での回覧や取引先へのクレームの手紙・会議の設定をする会話などが素材となる。

TOEICのカバーする英語は膨大で、いわゆる「TOEIC対策本」などだけで点数を上げられるものではない。特にリスニング力の養成は一朝一夕では不可能で、毎日の努力の積み重ねがもっとも大事である。ただ、上記のようにかなり特徴のある試験でもあるので、特にビジネスの英語に不慣れな学生には「対策」も不可欠となる。つまり、総合的な英語力をつけるための幅広い勉強とTOEICをターゲットにした勉強の両方を並行して行うのが結局は最も効率が良いといえる。以下に具体的なプランをあげてみたので参考にしたい。①リスニング対策をする「たくさん英語に触れる機会を作る。できれば一日に聞く英語のノルマを設定すること。本物の英語に慣れ、英語のまま聞き理解する力、状況を判断しながら聞く力をつける。

授業で使う教材に加えて、テレビ・ラジオの英会話番組、CSやケーブルテレビ、映画などで英語の番組・副音声などを聞くのも効果あり。また今は英語CDの雑誌も多いのでぜひ利用してほしい。聞く際には単に聞き流すだけでなく、要点を聞き取る、あとについて言ってみる、書き取るなどの作業をすることでより効果的。②TOEIC用問題集を解く。その際には知らない語彙表現などをしっかりと押さえておくこと。また、TOEICは時間との戦いなので、時間配分などに慣れるのも大切。文法については受験で鍛えた英語が役に立つので昔の参考書を引っ張り出して確認してみよう。また大学のコンピュータ室にはTOEIC対策の自習ソフト「ネットアカデミー」があるので積極的に利用してほしい。最後に、短期間で大幅なスコアアップは望めないということを覚えておいてほしい。勉強を始めるためにも、とにかく早めに一度TOEICを受験してみることを勧める。そこで自分の力とTOEICの壁を実感し、目標を持って授業や自主学習に取り組んでいくことがスコアアップへの一番の近道なのである。